ロボット産業 県内振興探る

宇都宮でキックオフシンポ

キックオフシンポジウムに合わせ展示された各種ロボット＝12日午後、宇都宮市の県総合文化センター、福田淳撮影

販路開拓、連携に期待

ロボット産業の振興を目指す「とちぎロボットフォーラム」のキックオフシンポジウムが12日、宇都宮市の県総合文化センターで開かれ、会員やロボット産業に関心がある企業の担当者ら150人が参加した。企業からは販路開拓支援の要望などの声が上がったほか、パネルディスカッションでは農業やサービス分野へのロボット導入が提案された。（岡田優子、太田啓介）

企業など活用例を展示

会場には県内に拠点を持つ企業や宇都宮大など8団体が産業用ロボットや農業用ロボット、ドローンなどを展示。電子機器開発製造のアール・ティー・シー（上三川町上三川）は来春発売する予定の介護施設向け見守り支援機器をPRした。同社担当者は「ものづくり企業にとって難しいのが販路開拓。県などに支援をお願いしたい」と強調した。

ソフトウエア開発のソフトシーデーシー（宇都宮市西2丁目）はドローンなどロボットを活用する独自システムを紹介。「ハード部分を製品化できる県内企業があれば連携を考えたい」と期待した。

シンポジウムでは、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）の横井一仁氏がロボットの技術動向を説明。工作機械大手のファナックや人型ロボット開発販売のカワダロボティクスの開発の取り組みも紹介された。

「ロボットによる本県産業の成長発展に向けて」をテーマにパネルディスカッションも実施。本県でのロボットの可能性について、「農産物の付加価値を上げるのにロボットが貢献できるのでは」「宿泊や飲食などのサービスにロボットを導入すれば新たな魅力を提供できる」などの意見が出た。「コミュニティーを育てるテクニカルセンターのようなものを県がハブ（中心）となり作ってもらえれば」などの要望も上がった。

同フォーラムは「ものづくり・物流」「農林・フィールド」「生活・サービス」の3分科会を立ち上げ、11月以降、分科会ごとに業界の動向報告や事例紹介、意見交換などを行う予定。

平成28年9月13日（火）下野新聞

ロボ産業育成へフォーラム発足

栃木県

栃木県は12日、県内にロボット産業を育てるため関連の企業や研究機関などを集めた会員組織「とちぎロボットフォーラム」を立ち上げた。会員間の情報交換や研究協力、商談などの場となる組織で、企業や大学、金融機関、商工団体、自治体など77会員が加わった。下部組織として生産・物流や農林業、介護や観光などサービス業からなる3つの分科会も設けた。

平成28年9月13日（火）日本経済新聞